

# 1年間の学習の成果を発表 よみかき交流会

よみかき交流会が1月27日・28日、ホテルシーモア（白浜町）でひらかれ、識字生や指導者、行政など137人が参加した。

はじめに、木皮享・県教育生涯学習局長から「作成した看板や作品に感動し



善明寺識字学級生の思いが記されたスライドショー



朗読を披ろうする古和田識字学級生ほか



歌えや踊れの大宴会！！



親保・客員教授からの報告

かかわる県民への啓発や識字教室の推進にとりくんできた。しかし、識字学級を必要とする非識字者を確認しており、識字学級の存在は非常に重要。この2日間で発表・研究協議などで絆を深め、また行政関係参加者には、この交流会で学んだことを市町村や関係部局にもちかえってほしい」と

あいさつがあった。体験発表に、古和田識字学級・他から構成朗読「水平社が生まれるまで」、実践発表では、善明寺識字学級から「善明寺寺院物語」新寺院建設と人びとのおもいが発表された。識字学習者の学習資料の見学のあ

ら」について協議した。分散会では、識字教室や支部の課題、高齢化問題など、とりくみが報告された。夕食の懇親会では、毎年おなじみのカラオケや踊りなどで大いに盛り上がった。

2日目は、各分散会の報告と新保真紀子・神戸親和女子大学発達教育学部客員教授より「教えることは学ぶこと〜大学生と識字教室の学びを結んで〜」のスピーチをみながらの分かりやすい講演があった。

おわりに堂本淳也・人権教育推進室長から「これからも識字教室で楽しい学び

をつづけていただきたい。くれぐれにも身体には注意して、また来年よみかき交

## 人権課題を学習、高野の地で

### 高野山夏期講座

第48回部落解放・人権夏期講座第3回実行委員会を昨年12月13日、大阪HRCビルでひらかれ、事務局が参加した。

谷川雅彦・所長から夏期講座の成功と感謝のべられ、第48回夏期講座を総括し、来年にむけすすんでいくとあいさつがあった。総括のなかで、アンケートから各テーマともわかりやすく、普段聞けないリアルな話もあり、自身の意識向上につながったなど意見があった。高野山内施設無料拝観は、来年も検討いただける。また、今年はい、392人と昨年から79人も参加者増となった。

## ◆各支部旗びらき

- 各支部で旗びらきがひらかれた。日程はつぎのとおり。
- (1月)
- 7 湯浅、新宮
- 6 杭ノ瀬、善明寺、平井
- 5 岩橋
- 13 岩出、那賀
- 14 古和田
- 16 御坊
- 19 有田市
- 20 笠田東
- 25 名古屋

## 主張 「推進法」を具体化させ、実行性ある施策を！

昨年は、2016年に制定された「部落差別解消推進法」の啓発や研修を全国的に実施してきた。その結果、県下の市町村で「推進法」制定のホームページの記載や啓発チラシが作成されるなど、一定成果がみられた。また、共闘・友好団体においても学習会がひらかれた。

今年、この「推進法」の具体化を求め行動してい

く年としていかなければならない。とくに、昨年に実施された対和歌山県交渉（部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会主催）でも指摘してきた法制

定をうけて、県の人権行政

してきた和歌山県として機構の改革を実施していく。②「推進法」に明記されている相談体制の充実について、その具体化をせま

っていくこと。③実態調査については、従

定を強く国や政府に求めていくことが必要だ。「推進法」が制定され1年が経過した。いまなお県内で差別事件が数多く発生している現状をふまえた

来の国勢調査をもとにした「人権課題現況調査」をさらに発展させ、部落差別の実態・生活実態が把握できる内容にすること。④以上のことをふまえ、さらに実効性のある「法」制

定を強く国や政府に求めていくことが必要だ。「推進法」が制定され1年が経過した。いまなお県内で差別事件が数多く発生している現状をふまえた



分散会のようす



## 文化の窓

### 東日本の部落史

編者：東日本部落解放研究所、発行所：現代書館  
発行：I巻2017年12月15日 II巻・III巻2018年1月20日  
A 5判/ISBN978-4-7684-5820-4

東北・関東・甲信越・伊豆地方のぼう大な地域史料をもとに、東日本の部落の歴史と文化の全容をあきらかにした本格的な論集。I・II巻は各都県別部落史、III巻は身分・生業・文化をテーマに、中世・近世・近代をひも解く。



◆お問い合わせは県連・教宣部まで  
TEL 073-473-2301